

児童生徒の「英語で伝え合いたい」という思いを高めるために、単元末の言語活動の目的や場面、状況等の設定や単元の導入を工夫することが大切です。また、基本的な表現の定着を図り、自信をもって言語活動に臨めるように、活動の種類や形態、活動量のバランスに留意した単元構成に努めましょう。



基本的な単元の流れ

単元末に設定されたゴールを知り、そのために必要な新しい表現に出合う活動

新しい語句や表現に慣れる活動

表現（やり取り）に慣れる活動

他者との関わりを通して課題を達成するコミュニケーション活動

児童生徒の興味・関心、学校や地域の特性に応じて、言語活動の目的や場面、状況等を設定しましょう。

単元末の言語活動では、児童生徒が、学んだことを生かして、主体的に自分の考えや気持ちを表現し、とすることが大切です。

【実際の例】 小学校3年 Let's Try! 1 Unit 5 What do you like? (4時間)

【1時間目】単元の導入として、昼の放送で行う「ボブ先生クイズ」のための取材活動を英語で行うことを確認した後、「What ~ do you like?」を使うと、相手の好きなものを聞くことができることを知る。

導入では、「〇〇について聞いてみたい」「どうやって聞けばよいのだろう」という思いを引き出すように工夫しましょう。

ボブ先生に英語で取材するのか。みんなは何を聞くのかな。ぼくは、好きな日本食について聞きたいな。どうやって聞けばよいのかな？



【2～3時間目】チャンツやカード取りゲーム等の中で、必要な語句や表現を繰り返し練習する。また、友達と好きなものを聞いたり答えたりするインタビュー活動を通して、使用表現を活用することに慣れ親しむ。

【4時間目】取材を通して、ボブ先生の好きなものに関する情報を集める。

Hi, Bob sensei. What Japanese food do you like?

I like sushi. It's very delicious!

①Sushi. Me, too! What sushi do you like?

I like salmon. What sushi do you like, Ken?

Oh, you like tuna. Good try!

② I like "Maguro." え〜と, Red sushi.



言語活動における主体的な子どもの姿

- ①相手の話の内容を理解し、関連のある質問をして会話をつなげようとする。
- ②話したい内容を、既習の語句や表現を用いて工夫して伝えようとする。